

出張報告書

令和6年11月21日

市議会議長 様

会 派 名 にじの会

代表者氏名 高比良 正明

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 全国市議会議長会研究フォーラム
「地方議会の課題と主権者教育」について
- 2 出 張 先 トーサイクラシックホール（岩手県民会館）
- 3 出張期間 令和6年10月 9日～令和 6年 10月 10日
- 4 出張者氏名 高比良 正明、河合 達雄、殿本マリ子
- 5 てん末報告 別紙参照

議長会による主権者教育の推進として

A, 地方議会の課題

1. 投票率の低下
2. 無投票当選の増加
3. 議員の性別や年齢構成の偏りなど

B, 議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進すること

C, いわゆる出前講座や模擬議会など議会自らが主体的に行う

出前講座や模擬議会など自らが主体的に行う主権者教育の取り組みに対する支援を講ずることがあげられました。

1日目は午後1時よりコーディネーターを井柳美紀氏が行いパネリストの土山希美枝氏、越智大貴氏、渡辺嘉久氏、遠藤正幸氏らによるディスカッションが始まりました。

最初は議員のなり手不足問題で厚生年金加入があれば議員のなり手も増加するのではないかと意見が出され、その内容について色々と意見交換が行われました。

そして、主権者教育についても以下のような討論がされました

- 1, 主権者教育は議会や教育現場でするべきではない。議会が行うならだれが対象か、又どんな能力をどんな手法で育成するか

そして政府は市民を「教育」すべきか などがあげられました。

- 2, 学校現場の主権者教育は選挙に行こうが主である。がっこうで友人と政治や社会の問題を話すことは少ない
- 3, 主権者教育においては法律の話や選び方など選挙についての知識や啓発を行う教育という認識が強い。又、学校での主権者教育は選挙に関することや模擬投票体験中心でその背景には「政治的中立」と「授業準備」というハードルがある。現在では生徒会役員になる人が少ない。
- 4, 若者は政治や社会をどう捉えているのかということに関心がないわけではなく参加しても意味がないと思っている。学校現場における主権者教育の現状は政治的中立への過度な配慮があるがそれは学校が悪いわけではない。議会の役割としては学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくる
- 5, 高校生35人に選挙に行く人を訪ねると1人と回答があり、34人がなぜ行かないのかと聞くと

「政治の事を知らない自分が投票に行って選ぶ人を間違えたら大変だ」という返事があったそうである。

政治につながるは未来とつながると同じで政治を考えるは未来を考えると同じであり自分の未来を創造する事につながっていく。そのために間違った選択をすると大変だということ

になるのだろうか。

6, 盛岡市議会の高校生議会の取り組みの目的は次代を担う高校生が選挙及び、政治、並びに身近な地方行政への関心を高める事である。

1, 盛岡市議会として主権者教育に取り込むものであること
2, 議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じる機会であること

3, 議員が高校生と直接交流する場であることをあげています。

この意見交換により議員はいつも刺激をもらっているとの事
高校生の参加者は「市政に関心を持った」「議会の役割が理解できた」などの意見がでたとの事でした。

二日目は課題討議として

「主権者教育の取り組み報告」として討議されました。

1, 高校生の議会傍聴と意見交換会の取り組み
2, 四日市市議会の主権者教育の取り組み
3, 山鹿市議会が取り組んだシチズンシップ教育
など様々参考になる討論がなされました。

私の意見は中学生、高校生が日常的に政治とは何かを身近な事で学んでいく姿勢が大事だという事です。例えばコロナ禍での生活

が今までと全く変化し、様々な事に対応させなければいけません
でした。その時政治の力が大きく働きました。給付金の金額設定
やマイナンバーカードの申請など多様なことです。このような事
を決めていくのが政治力です。一般市民の生活を向上させ、他国
との繋がりを持つなど、多くの分野で国民のために一生懸命に行
動かしてくれる政治家をどう選択するかは日常生活や学校教育の
中で認知するべきです。それには年に一度でも議会を知る機、議
員を知る機会を持つべきであると考えます。そして今、主権者教
育において、もっとも注視しなければならないのは投票率の低下
と議員の成り手不足です。今後若い人達に政治を身近に感じても
らい魅力がある仕事であることを発信空いて行く事が重要と考え
ます。